



# すべての子どもが学びにアクセスできる新たな学校 「宇美町立学びの多様化学校」ってどんな学校？

## 宇美町の不登校対策

### 不登校児童生徒の状況

小学校	不登校の割合
令和4年度	2.8%
令和5年度	4.3%

中学校	不登校の割合
令和4年度	11.0%
令和5年度	11.9%

文部科学省が発表した令和4年度の全国の不登校児童生徒数は約30万人とされており、本町でも不登校者数は年々増加している。

本町では、平成12年度に「し〜ず・うみ」に不登校の児童生徒を対象とした適応指導教室「くすのき教室」を他町に先駆けて開設。中学校には校内教育支援センターが設置され、教育相談室やスクールソーシャルワーカーと連携した対応が行われている。

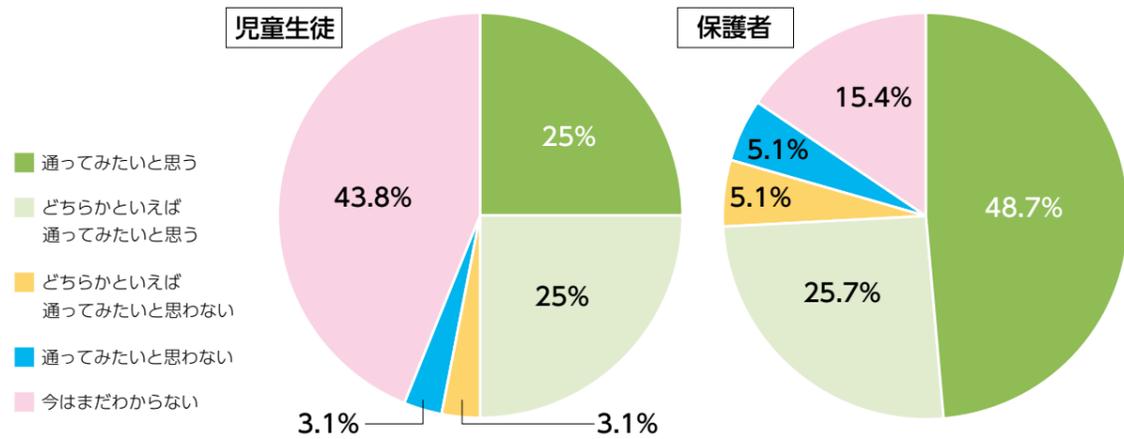
今回、「学びの多様化学校」の開校と同時に教育相談室もハピネスに移設される予定である。すでにハピネスに設置されている「こども家庭センター」と併せて充実した相談体制が築かれ、こども教育総合支援センターとしてのさらなる機能強化が図られる。

「学びの多様化学校」は児童生徒と保護者に新たな選択肢を提供することで、一人でも多くの児童生徒に教育機会を確保するものである。

## 多様な学びの場に関するアンケート

Q 学びの多様化学校に「通ってみたい」「通わせてみたい」と思いますか。

令和6年8月8日 現在



宇美町教育委員会では令和6年8月に多様な学びの場に関するアンケートを実施した。アンケートの結果、対象のうち半数の児童生徒が通ってみたい、4分の3の保護者が通わせてみたいと前向きな回答となっており、学びの多様化学校へ高い関心を寄せていることがうかがえる。

### 取材を終えて

小中学校では福岡県初となる「宇美町立学びの多様化学校」の開校は、大きな注目を集めており、県外からの問い合わせもあっている。他町に先駆けたこの取組が、本町の児童生徒の教育機会の確保に大きく寄与するのではないかと考える。学校教育が抱える最大の課題である不登校の解決に向かう大きな一歩となるのではないかと。教育長のリーダーシップに期待したい。

「宇美町立学びの多様化学校」が宇美町こども教育総合支援センターうみハピネスに原田小・宇美南中学校の分校として令和7年4月に開校される予定である。「学びの多様化学校」とは、不登校児童生徒の実態に配慮して特別の教育課程を編成して教育を実施する学校で、令和6年4月現在、全国で35校。県内では、全日制の小中学校ではじめての設立となる。そこで、今回は折居教育長のインタビューを行った。



宇美町こども教育総合支援センター（うみハピネス）

**PURPOSE**※

宇美町立学びの多様化学校ハピネス分校は  
「行きたい学校」「会いたい仲間」  
「参加したい学び」を創造します

学校経営の柱 ワンヘルス教育  
心と体、生物と環境の一体的健全性

宇美町と宇美町議会は「ワンヘルス宣言」をしています

学校経営要綱より ※パーパス（存在意義）

## 折居教育長インタビュー

Q 学びの多様化学校が目指す姿は

折居教育長

児童生徒の主体性が一番大切。自ら課題を発見し、自分の責任のもとに解決する力を身に付けてほしい。

まず登校してもらい、学校で人間関係をつくる。最終的にはしなやかさと粘り強さを身に付けて、社会をたくましく生き抜いてほしい。

先生は児童生徒の伴走者としての支える人になる、これがこの学校の大人の役目。

Q 児童生徒に対する支援の考え方は

折居教育長

先生は児童生徒が自立できるように支える。それには「支援」を「支持」と「援助」に分けて考える。まずは伴走者として「支持」を行い、解決が難しい時に「援助」を差し伸べる。「援助」が先にいかないようにしたい。

Q ここでいう目標とは？

折居教育長

ハピネスの近くには自然豊かな四王寺泉の森がある。福岡県、宇美町ともに「ワンヘルス教育」を推進し、心と体、生物と環境の一体的健全性を理念としている。この環境を最大限活用して森を散策したり、動物とふれあうことで心と体の健康エネルギーを高めてほしい。



折居教育長

interview



学校教育課HP